

令和4年度上半期守山市地域包括支援センター事業実績について

1 「守山いきいきプラン2021」（第8期計画）において目指す地域包括ケアの深化

団塊の世代が75歳以上となる2025年を見据え、高齢者の身近な地域における相談支援体制の充実を図るため、地域包括支援センターの機能強化に取り組んできました。

令和3年4月から南部、中部、北部のすべての日常生活圏域に地域包括支援センターを設置し、基幹型と圏域センターとが連携を図りながら各事業等の推進を図ることで、高齢者の介護予防、健康寿命の延伸に努めています。

【重点取組】（“守山いきいきプラン2021”）

- ◆ 地域に寄り添った地域包括支援センターの機能強化
- ◆ 誰もが参加しやすい介護予防の推進
- ◆ 地域全体で取り組む認知症「共生」・「予防」の推進

2 主要事業の推進（※★…重点的な取組） 資料1-1参照

【地域包括支援センターの運営】（圏域包括）

- (1) 総合相談支援業務 ★
- (2) 権利擁護業務
- (3) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務
- (4) 介護予防ケアマネジメント ※基幹型で実施

【社会保障の充実分】（基幹型）

- (5) 在宅医療・介護連携推進事業
- (6) 認知症総合支援事業 ★
- (7) 地域ケア会議推進事業

【介護予防・日常生活支援総合事業】（基幹型）

- (8) 一般介護予防事業 ★
- ※保健事業と介護予防の一体的実施を含む。

3 令和4年度上半期における課題

(1) 高齢者の健康づくり・介護予防の推進

昨年度より開始した保健事業と介護予防の一体的実施事業の本格的始動により、健康状態未把握者等へのアプローチから、支援が必要な人を見つけ必要な支援へつなげられるよう、保健事業と連携し、新たに発見した支援が必要な人へのフォローに努めました。今後も、各地で行う健康相談会や健康状態未把握者へのアプローチから、支援が必要な人を早期に把握し、早期支援に努める必要があります。

(2) 新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた事業等の実施

新型コロナウイルス感染対策に留意しながら圏域包括主催のみまも〜り〜カフェの継続開催や介護予防教室など事業継続に努め、自主活動の再開に向けた出前講座の開催に努めました。感染者の増減が続く中でも必要な事業展開ができるよう、下半期も引き続き、感染症対策に留意した運営を行っていく必要があります。

特に感染症が拡大した場合における高齢者の相談支援業務（見守り支援、生活状況の把握等）については、民生委員・児童委員、自治会等の地域支援者やケアマネジャーと連携を密に図り、適切な支援を継続する必要があります。

(3) 複合課題のある人、認知症高齢者への支援

「生活困窮家庭に働いていない子（成人）がいる」、「認知症の高齢者と精神疾患がある子（成人）が同居しており、生活状況が不明で心配」など、複合的課題のある家庭に関する相談が増えています。また、認知症高齢者の支援について、病状の進行や環境変化により、再度ケアマネジャー等から相談を受けるケースが増えています。認知症初期集中支援チーム活動により、認知症高齢者への支援について、地域支援者やケアマネジャーなど関係者と連携し認知症高齢者やその家族へ適切な専門医への受診やサービス利用支援に努める必要があります。

4 今後の方向性

地域包括支援センターおよび関係各課・関係機関が適切に連携を図ることで、複雑化・複合化した課題に対し、適切できめ細やかな支援に努めます。特に 11 月には民生委員・児童委員の改選があるため、新任の方に地域包括支援センターの業務内容を周知し、連携しやすい顔の見える関係づくりに努めます。

また、新型コロナウイルス感染症予防に留意し、健康相談会や健康状態未把握者への訪問など地域に出向くアプローチの強化や、地域支援者等関係者・関係機関と連携を密に図る中、支援が必要な高齢者へ迅速に支援を提供できるよう取り組みます。